

平成31年3月18日
実行委員会第1回常任委員会決定

三重とこわか国体

ときめいて人 かがやいて未来 2021

三重とこわか大会

第76回国民体育大会

第21回全国障害者スポーツ大会

式典基本計画



目 次



式典基本計画策定にあたって	1
1. 第76回国民体育大会・第21回全国障害者スポーツ大会の概要	2～5
2. 式典の概要	6～9
3. 三重とこわか国体総合開・閉会式、三重とこわか大会開・閉会式	10・11
4. 演技プログラム（式典演技、オープニング・エンディングプログラム）	12
5. 式典音楽	13
6. 各競技会の表彰式	14
7. 炬火イベント	15
8. 式典業務スケジュール	16・17

式典基本計画策定にあたって



第76回国民体育大会(三重とこわか国体)を2021年に本県で開催することが正式に決定しました。国民体育大会の開催は、1975年(昭和50年)の第30回大会以来、46年ぶり2度目となります。

また、三重とこわか国体の開催決定に伴って、第21回全国障害者スポーツ大会(三重とこわか大会)についても、同年に本県で開催することが決定しました。全国障害者スポーツ大会の開催は初となります。

三重とこわか国体、三重とこわか大会の開催を通じて、本県のスポーツ振興並びに地域の活性化に向けたレガシー(遺産)を残すとともに、前年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの感動を引き続き三重の地でも分かち合い、未来につなげる大会をめざします。

とりわけ、開・閉会式をはじめとする式典においては、多様性に満ち溢れた本県のポテンシャルをさまざまな形で表現し、式典に参加する多くの人々に共感・再認識いただく絶好の機会となります。

私たちは、従来の例にとらわれることなく、斬新な発想とスマートな運営により無駄のない効率的な式典を構成するとともに、すべての人が、「する」「みる」「支える」といったさまざまな関わりを持つことで、温かい心のつながりを感じられる式典とする必要があります。

本式典基本計画は、式典にかけるこのような理念を結実させるため、「式典基本方針」を踏まえ、式典の具体的な内容についての基本的な考え方を明示し、式典全体の準備の円滑な推進を図るために策定するものです。

1. 第76回国民体育大会・第21回全国障害者スポーツ大会の概要

<大会名・開催時期・実施競技>

第76回国民体育大会

開催時期

2021年9月25日(土)～10月5日(火)

○ 総合開会式 2021年9月25日(土)

【会場:三重交通G スポーツの杜 伊勢(三重県営総合競技場)】

○ 総合閉会式 2021年10月5日(火)

【会場:三重交通G スポーツの杜 伊勢(三重県営総合競技場)】

実施競技

正式競技 37競技

特別競技 1競技

公開競技 5競技

デモンストレーションスポーツ 32競技

第21回全国障害者スポーツ大会

開催時期

2021年10月23日(土)～10月25日(月)

○ 開会式 2021年10月23日(土)

【会場:三重交通G スポーツの杜 伊勢(三重県営総合競技場)】

○ 閉会式 2021年10月25日(月)

【会場:三重交通G スポーツの杜 伊勢(三重県営総合競技場)】

実施競技

正式競技 14競技

オープン競技 未定(2019年度に決定)

<愛称>

三重とこわか国体2021



三重とこわか大会2021



「常若(とこわか)」とは、「いつも若々しいこと。いつまでも若いさま。」を表現した言葉で、県民や来訪者が活力に満ち、元気になるようにとの願いを込めています。

<スローガン>

ときめいて人 かがやいて未来

両大会がきっかけとなってすべての人が夢と感動、喜びと充実感を味わい、大会後も元気であり続けていくような未来を願っています。

<マスコットキャラクター>

とこまる



「とこまる」の「とこ」は、大会愛称である「とこわか」や「とことこ」と元気に走り回る子どものイメージです。
「まる」には国体・大会の成功(○になる)や、選手だけでなく携わっていただくすべての方の「和」という願いを込めています。

<イメージソング>

未来に響け

作詞・作曲 : 奥野 和憲

編曲 : 牧戸 太郎(松阪市出身 作曲・編曲家)

歌唱者 : 野田 愛実(松阪市出身 シンガーソングライター)



「みえのスポーツフォーラム2018」でのイメージソングとダンスのコラボレーション

1. 第76回国民体育大会・第21回全国障害者スポーツ大会の概要

三重県内全市町で競技を開催！

三重とこわか国体 三重とこわか大会

三重とこわか国体

正式競技	19市町	37競技
特別競技	3市町	1競技
公開競技	5市町	5競技
デモンストレーションスポーツ	20市町	32競技

〔注〕競技名の後に（種別）の記載がない競技は、全種別を実施

正式競技
都道府県対抗で実施され、得点対象（天皇杯・皇后杯成績対象競技）となる37競技のことをいいます。

特別競技
高等学校野球のことで、都道府県対抗の得点対象となりません。

公開競技
都道府県代表の参加により中央競技団体主導で開催するもの。
三重県では5競技実施され、都道府県対抗の得点対象となりません。

デモンストレーションスポーツ
原則として県内在住者を対象とし、子どもからお年寄りまで幅広い世代の方が気軽に参加できるスポーツです。都道府県対抗の得点対象となりません。

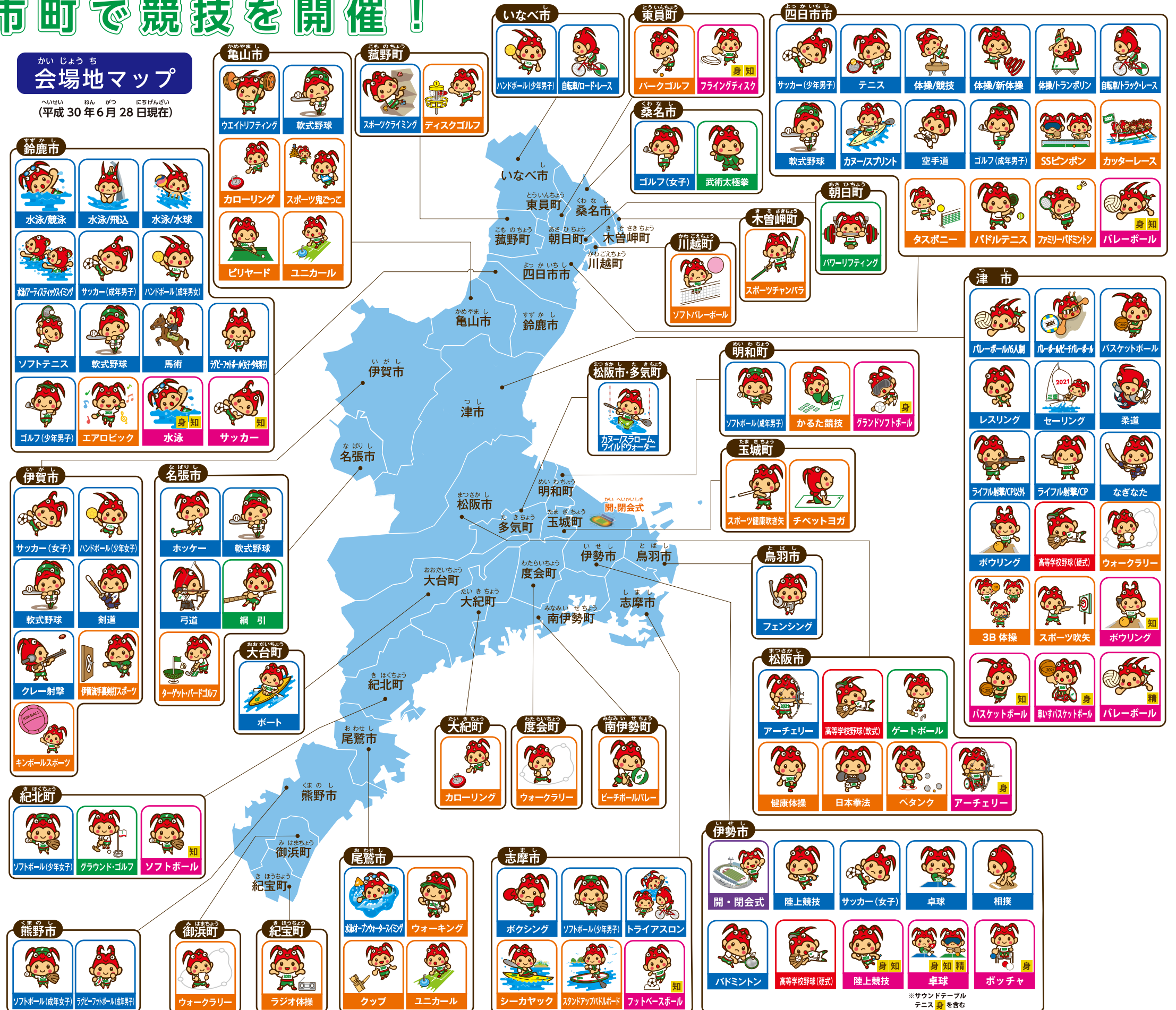
三重とこわか大会

正式競技	9市町	14競技
------	-----	------

身 = 身体障がい者が出場できる競技
知 = 知的障がい者が出場できる競技
精 = 精神障がい者が出場できる競技

会場地マップ

（平成30年6月28日現在）



2. 式典の概要

両大会の式典は、「開・閉会式」、「各競技会の表彰式」、「炬火イベント」で構成します。

両大会共通のスローガン「ときめいて人 かがやいて未来」のもと、三重の多彩な魅力を全国に発信し、かがやく未来につながる式典とします。

(1) 式典テーマ **ときめいて人 かがやいて未来**

(2) コンセプト

と

ときめき溢れる三重

- 県民総参加のもと、世代や性別に関わらず、より多くの県民が交流し、相乗効果を生み出せる式典をめざします。
- 三重のさまざまな魅力を全国に発信するとともに、県民も三重の良さを再認識し、すべての人がワクワク感を持ち、いきいきと参加できる、ときめき溢れる式典をめざします。

こ

こころのこもったおもてなし

- 全国から訪れる方々を多角的な視点からの心のこもったおもてなしで迎え、参加するすべての人が「活力に満ち、元気になる」式典をめざします。
- 多様な人材(する人、みる人、支える人)が一体となって感動を共有できる式典をめざします。
- 選手の負担軽減に考慮し、簡素な中にも創意工夫を凝らしたすべての人、環境にやさしいスマートな式典をめざします。
- 式典会場の立地条件等を考慮し、参加者の安全性、快適性の確保をめざします。

わ

わ(和・輪・環)の魅力発信

- 「和」、美しい自然風景、歴史文化遺産や多彩な食文化、個性豊かな伝統芸能などを有する三重の魅力を十分に発信できる式典をめざします。
- 「輪」、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックの盛り上げを活かし、多様性を尊重し、感動の輪が広がる式典をめざします。
- 「環」、伝統文化から先端技術、過去・現在・未来、永続するために変わり続ける「常若(とこわか)」の精神を表現できる式典をめざします。

か

かがやく未来へつなぐ

- 三重の魅力を県外の方には「共感」、県内の参加者には「再認識」いただける式典をめざします。
- 今までの国体・大会にない取組に積極的に挑戦し、全国から集う選手・観客をはじめ参加するすべての人の心に残る式典をめざします。
- 多様性を尊重し互いに認め合うダイバーシティ社会の到来を、身近に感じることができる式典をめざします。
- 障がいの有無にかかわらず、参加する人が、国体・大会を通じて生まれたときめきや感動を分かちあい、輝きが未来へつながることをめざします。

2. 式典の概要

(3) 基本的な考え方

開会式 かいかいしき (国体・大会共通)

- ◇ 県民一体となって“三重の多様な魅力”を発信し、歓迎ムードの輪が広がる内容とします。
- ◇ 県民あげての応援の輪で、選手・役員へエールを送り、参加するすべての人が感動を共有する内容とします。
- ◇ 式典時間の短縮などを検討することによって、選手の負担軽減と簡素効率化をめざします。
- ◇ 天候不良時には、プログラムを調整し、参加者の安全確保を図ります。

閉会式 へいかいしき (国体・大会共通)

- ◇ 選手の健闘を称えとともに、両大会を支えたすべての人に感謝の気持ちを伝える内容とします。
- ◇ 選手の負担軽減や簡素効率化となるスマートな式典をめざすとともに、アスリートと参加者が触れあう機会を創出し、未来へつなげる内容とします。
- ◇ 天候不良時には、プログラムを調整し、参加者の安全確保を図ります。
- ◇ 「いちご^{いちえ}一会とちぎ国体・大会」につなげる内容とします。



各プログラム・ステージ

三重とこわか国体 総合開会式、三重とこわか大会 開会式

◇ オープニングプログラム (国体・大会共通)

- 多角的な視点からの多様性に溢れた「おもてなしの心」で、三重の魅力を存分に感じていただき、両大会への期待が高まる内容とします。
- 三重の「多様な魅力」と「おもてなしの心」を伝え、「する」「みる」「支える」すべての人たちの絆や交流が始まる内容とします。

◇ エンディングプログラム (国体・大会共通)

- 式典の余韻を楽しみ、これから始まる競技会への期待を高めるとともに、「する」「みる」「支える」すべての人の気持ちを鼓舞する応援ムードあふれる内容とします。
- 三重の「多様な魅力」と「おもてなしの心」を伝え、「する」「みる」「支える」すべての人たちの絆や交流が始まる内容とします。

三重とこわか国体 総合閉会式、三重とこわか大会 閉会式

◇ オープニングプログラム (国体・大会共通)

- 繰り広げられた熱戦を振り返り、選手の健闘を称えとともに、ボランティアや応援等で支えた方々に感謝し、両大会の感動を伝える内容とします。
- 「三重とこわか国体」の総合閉会式では、「三重とこわか大会」開催への期待が高まる内容とします。

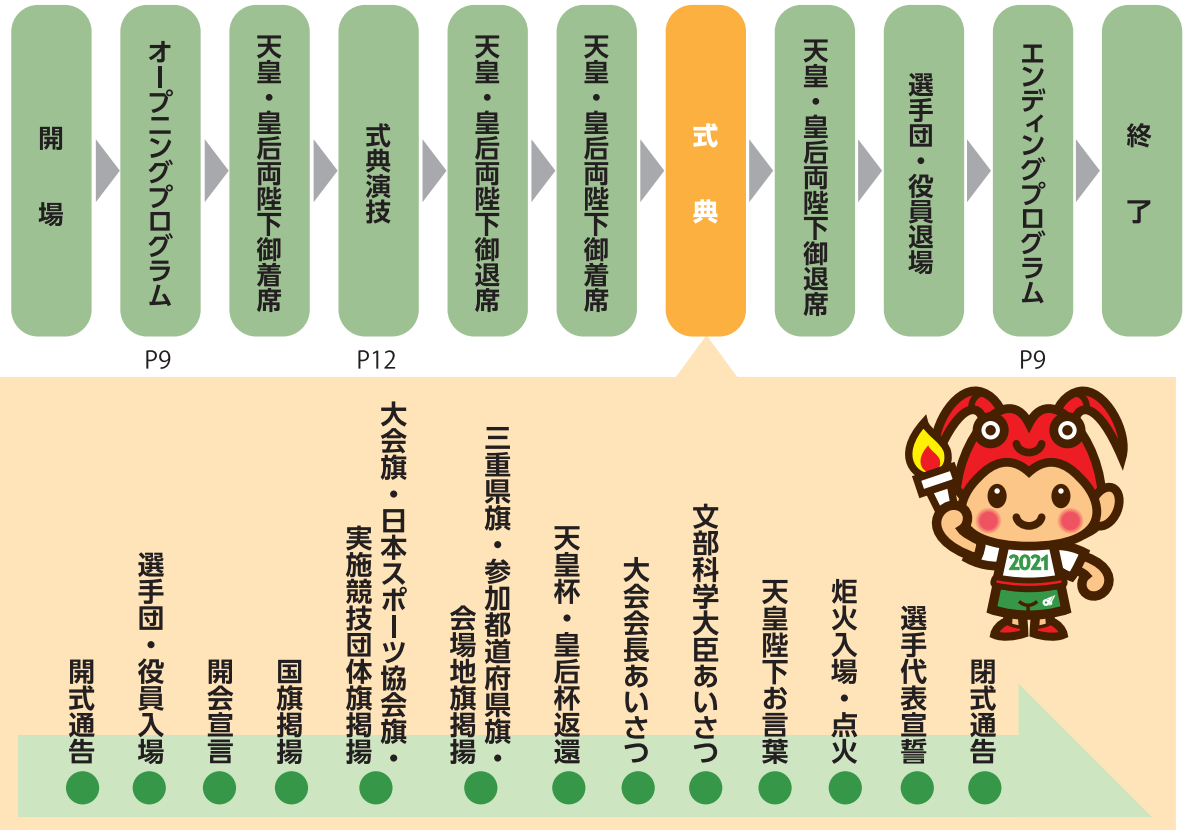
◇ ファイナルステージ (大会のみ)

- 選手、観客、大会関係者等が一体となり、大会後もスポーツによる「元気な三重」をめざし、未来に響く「常若(とこわか)」の精神へとつなげる式典とします。

3. 三重とこわか国体総合開・閉会式、三重とこわか大会開・閉会式

●次第の順序・記述については、今後の計画により変更する場合があります。

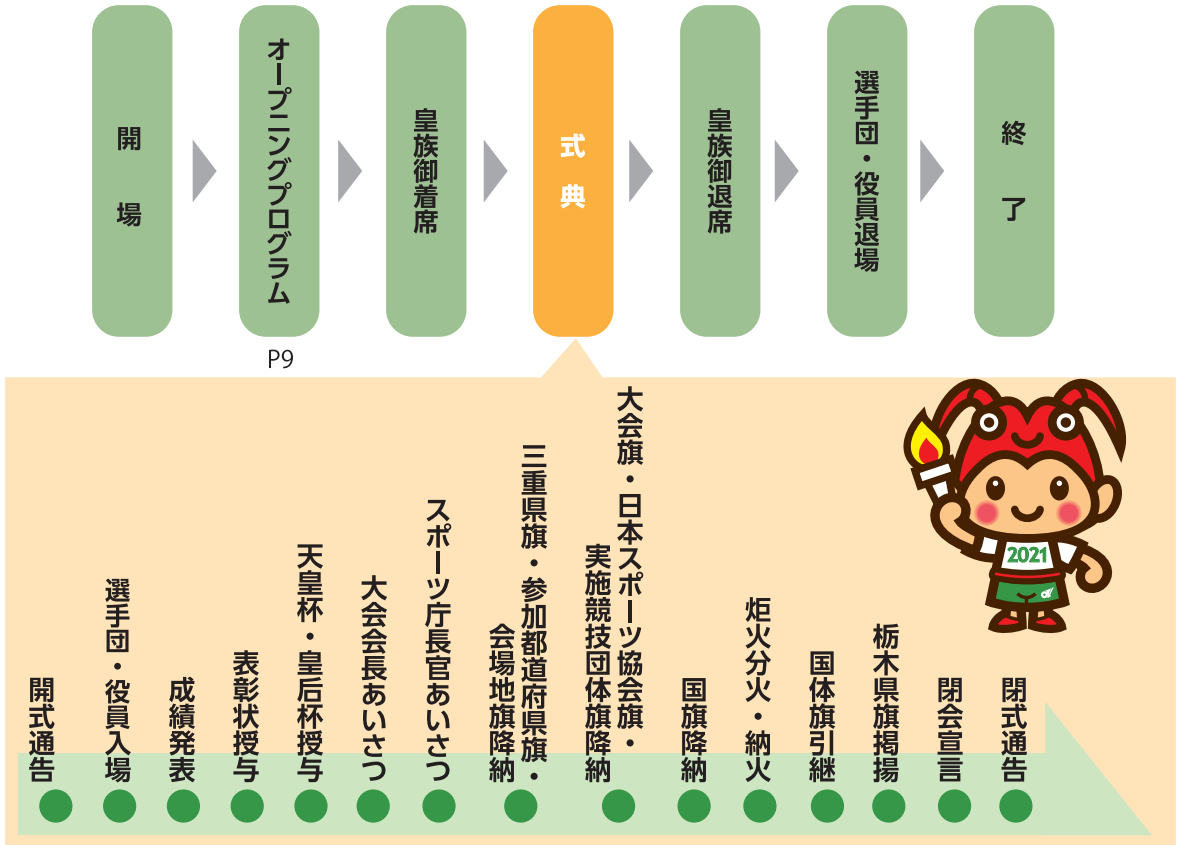
三重とこわか国体 総合開会式 次第



三重とこわか大会 開会式 次第



三重とこわか国体 総合閉会式 次第



三重とこわか大会 閉会式 次第



※次第については、公益財団法人 日本スポーツ協会と協議の上、正式に決定します。

4. 演技プログラム（式典演技、オープニング・エンディングプログラム）

（1）基本的な考え方

- ◇ 式典のテーマ・コンセプトに基づいて、これまでにない新しい構成をめざします。
- ◇ 多様性を尊重し受け入れる素地があり、さまざまな文化が受け継がれてきた三重の魅力を全国に発信する演技構成とします。
- ◇ 多くの県民が参加し、県民力を結集した元気な三重から、応援の輪が広がる内容とします。
- ◇ 出演者と観覧者の間に一体感を創出し、おもてなしの心を感じられる演出をめざします。
- ◇ 演技内容が分かりやすく魅力的に伝わるストーリーテリングの展開とします。
- ◇ 両大会に共通する演技内容を検討し、練習効率の向上と出演者の負担軽減に配慮します。



1975年（昭和50年）第30回大会の様子

中日新聞社提供

5. 式典音楽

(1) 基本的な考え方

- ◇ 「常若(とこわか)」の精神をもとに、第30回大会のために作曲された楽曲(※)の一部を継承するとともに、新たに三重ゆかりの楽曲も作曲することにより三重らしさを全国に発信し、選手団・役員と観客が一体感を感じられる式典音楽をめざします。
- ◇ 式典音楽隊は、三重ゆかりの奏者で楽器隊と歌唱隊を構成し、全国から訪れる方々を音楽でおもてなしする式典音楽をめざします。
- ◇ 両大会の連携を図り、式典音楽と式典音楽隊は共通とします。

※矢代秋雄作曲「式典序曲」「賛歌(遠藤周作・詞)」「ファンファーレ」「式典終曲」及び、兼田敏作曲「30回みえ国体記念マーチ(行進曲『ブルー・マリーン』)」

(2) 音楽隊編成の構想

- ◇ 県内各地から、さまざまな形で参画できる音楽隊を編成します。
- ◇ 音楽隊の参加にあたっては、練習会、リハーサルにも参加できる奏者とし、団体においては、代表者の承認が得られるものとします。

(3) 使用曲の構想

◇開会式

場 面	三重とこわか国体	三重とこわか大会
開式通告	ファンファーレI	
選手団・役員入場	入退場行進曲	
開会宣言	ファンファーレII	
国旗掲揚	「君が代」	
大会旗・日本スポーツ協会旗掲揚	「若い力」	—
大会旗掲揚	—	「空よ大地よ」
三重県旗・会場地市町旗掲揚	三重県民歌	
天皇杯・皇后杯返還	「見よ勇者は帰りぬ」	—
炬火入場・点火	炬火関連曲I	
選手代表宣誓	ファンファーレIII	
閉式通告	ファンファーレIV	
選手団・役員退場	入退場行進曲	

◇閉会式

場 面	三重とこわか国体	三重とこわか大会
開式通告	ファンファーレI	
選手団・役員入場	入退場行進曲	—
表彰状授与、天皇杯・皇后杯授与	「見よ勇者は帰りぬ」	—
三重県旗・会場地市町旗降納	三重県民歌	
大会旗・日本スポーツ協会旗降納	「若い力」	—
大会旗降納	—	「空よ大地よ」
国旗降納	「君が代」	
炬火分火・納火	炬火関連曲II	
国体・大会旗引継	栃木県が指定する曲	
次期開催県旗掲揚	栃木県が指定する曲	—
閉会宣言	ファンファーレV	
閉式通告	ファンファーレIV	
選手団・役員退場	入退場行進曲	

6. 各競技会の表彰式

第76回国民体育大会「三重とこわか国体2021」の各競技会の表彰式については、「国民体育大会開催基準要項」及び「同細則」に基づき、会場地市町実行委員会又は会場地市町（以下「会場地市町実行委員会等」という。）が競技団体と協議の上、次のとおり実施します。

(1)内容

各競技会の表彰式は、概ね次のとおりとします。

- ア 開式通告
- イ 成績発表
- ウ 表彰状授与
- エ 大会会長トロフィー授与
- オ 競技会会長閉会のあいさつ
- カ 会場地代表歓送のことば
- キ 国旗降納
- ク 大会旗、実施競技団体旗、会場地市町旗降納
- ケ 競技会終了宣言
- コ 閉式通告



(2)実施上の留意事項

- ア 表彰式の実施にあたっては、種目・種別ごとの表彰も含め、簡素化に努めるものとします。
- イ 表彰式の内容及び所要時間は、選手のコンディションに配慮したものとします。
- ウ 1競技が、複数会場地市町にわたる場合は、当該市町実行委員会等と競技団体が十分協議の上、実施します。
- エ 大会会長トロフィーは、表彰式において授与するまでの間、会場地市町実行委員会等が責任を持って保管します。
- オ 特別競技及びデモンストレーションスポーツに係る表彰式の内容については、上記(1)に準じます。ただし、大会会長トロフィー授与は除きます。
- カ 公開競技に係る表彰式については、中央競技団体が内容等を決定します。

(3)その他

前各項に定めるもののほか、表彰式の実施に必要な事項については、会場地市町実行委員会等が競技団体及び関係機関と協議の上、別に定めます。

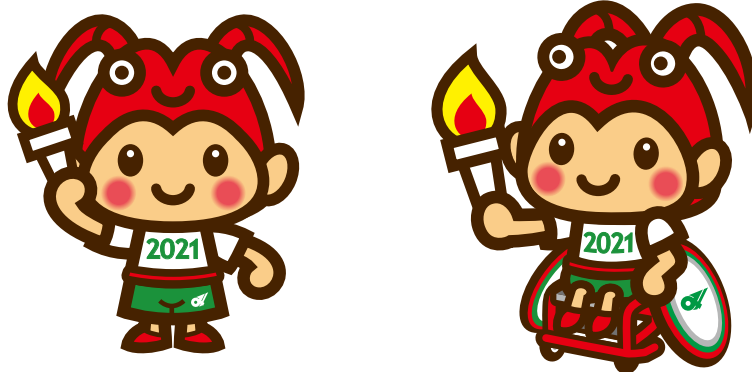
7. 炬火イベント

(1) 基本的な考え方

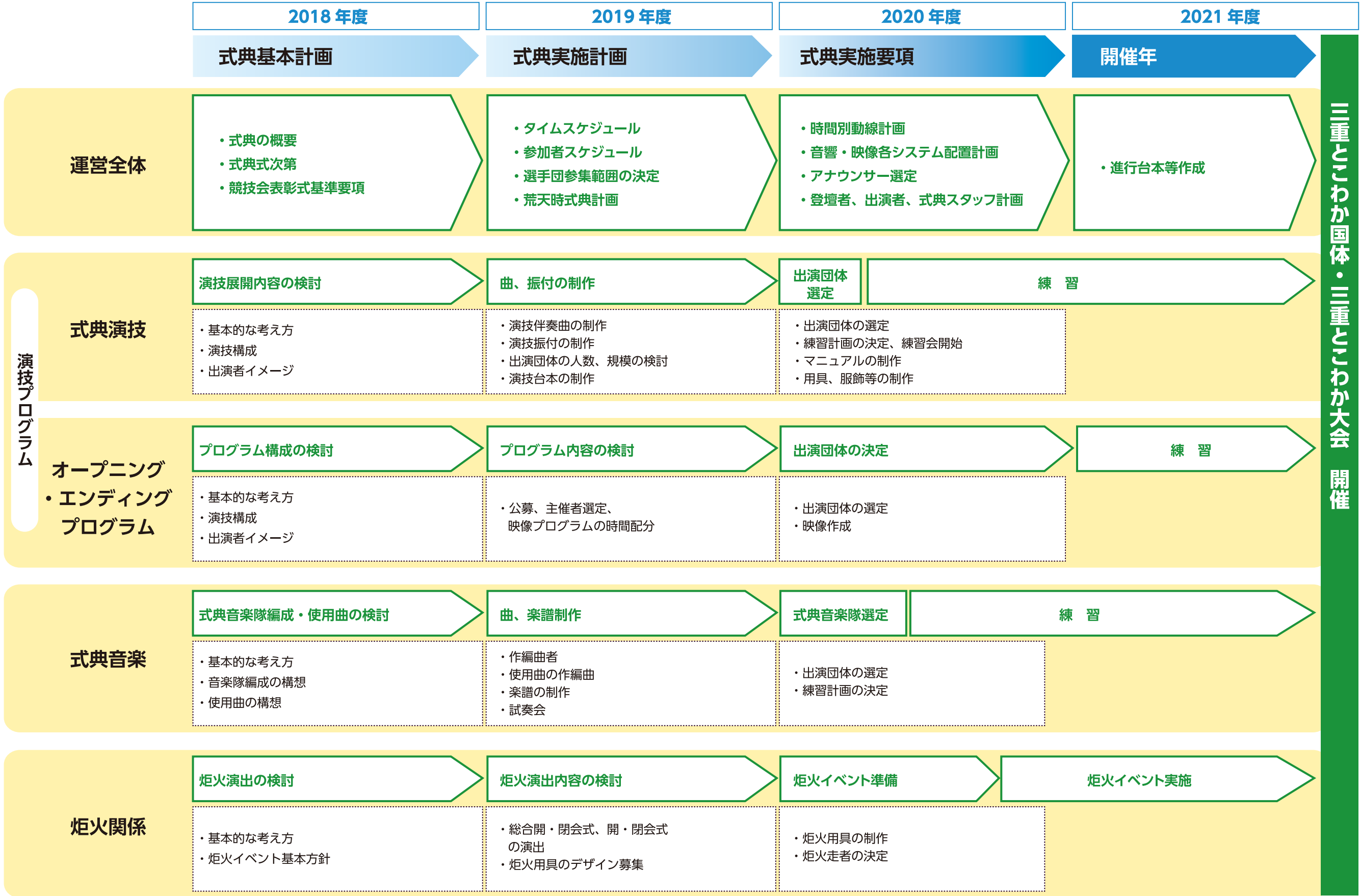
- ◇ 炬火イベントは、両大会の機運を醸成し、県民の誰もが参加しやすく、話題性が広がる内容とします。
- ◇ 炬火イベントは、地域の特色を活かし、簡素・効率化の中にも創意工夫のある内容とします。
- ◇ 炬火イベントは、県民自らの手で採火し、集火することによって、みんなで創り上げる一体感のある内容とします。

(2) 炬火イベント基本方針

- ◇ 炬火は、県内全市町で採火し、保管します。
- ◇ 炬火イベントは地域の特色を活かし、多くの県民が参加できる方式を原則とします。
- ◇ 参加した県民が両大会の開催が近づいていることを体感できる内容とします。
- ◇ 採火した炬火は、各市町が実施する催し(炬火リレー、炬火イベント等)で活用することができます。
- ◇ 実施にあたっては、簡素・効率化を心がけます。



8. 式典業務スケジュール



三重とこわか国体・三重とこわか大会 開催



三重とこわか国体・三重とこわか大会実行委員会事務局

〒514-8570 津市広明町 13 番地

TEL : 059-224-2341 FAX : 059-224-3245

<https://tokowaka.pref.mie.lg.jp/>